

．派遣概要

1．趣旨

大阪商工会議所では、世界最大のバイオイイベント「BIO*」の開催に合わせ、6月7日から13日の7日間、米国大使館と共催で、「BIO2004 ミッション」を実施した。

バイオ産業発祥の地サンフランシスコで開催された「BIO2004」への参加と、バイオの研究拠点のスタンフォード大学や、NASAの研究所、世界初のバイオ企業のジェネンテック社、バイオチップ開発企業のアフィメトリックス、同社からスピンアウトしたパラゲン社といった優れた技術を持つ企業・機関を訪問し、バイオ産業の最新情報入手や、団員企業のビジネスパートナー模索等をサポートするとともにバイオ振興地域としての大阪、バイオ振興団体としての大商のプレゼンスを示した。

*BIO：北米の主要都市で年1回開催される世界最大のバイオイイベントで、セミナーと展示会、マッチングプログラムを含む。バイオ発祥の地サンフランシスコで開催された今回のイベントには世界61カ国から合計16901人が参加し過去最大規模となった。日本人参加者も700名（昨年7倍）。サンフランシスコにおけるイベント経済効果は40億円弱。マレーシアからは首相が、英国、豪州、タイ、ニュージーランド、インドなどからは閣僚クラスが来場。展示ブースは1469設置され、5200の個別商談、275企業のプレゼンテーションがアレンジされ、192のセッションで900名のスピーカーがスピーチを行うなど、4日間にわたり多くのプログラムが平行して実施された。

2．実施概要

- 基本日程：2004年6月7日（月）～13日（日）
訪問都市：サンフランシスコ（シリコンバレー）
主催：大阪商工会議所
共催：米国大使館
後援：米国商務省、大阪府、NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議、
監査法人トーマツ、REED SMITH社
協力：Southern California Bio Medical Council、英国 BIO INDUSTRY ASSOCIATION
BioTeam Paris Region GIE、BioTOP Berlin、BioDundee（スコットランド）、
ペンシルベニア州、ミズーリ州、カナダ大使館、カナダ総領事館
プログラム：BIO2004参加及び、スタンフォード大学、NASA研究所、ジェネンテック社、アフィメトリックス社等、バイオ関連企業、研究所の視察及び研究者との懇談
団構成：日経BP社先端技術情報センター長の宮田満氏（アドバイザー参加）をはじめ、
製薬企業、バイオベンチャー、医療機器、エレクトロニクス、IT、商社など、
52名（事務局2名、旅行社随員1名を含む）

3．総括

BIO2004は、過去最大の来場者を数え、世界各国から主要なバイオクラスターがブースを構え、バイオ分野に於ける最大の国際イベントとして確固たる地位を築いている。イベントの傾向としては、バイオビジネスにおける企業間連携の重要性を反映して、最新情報提供より、ビジネスパートナーリングのウエイトが高くなってきている。今後は、異分野の融合による研究開発が技術革新のカギとみられるため、異業種交流を念頭においたプログラムに重点がおかれるかどうか、イベントの方向性に注目が集まることになる。

米国のバイオ企業への投資は、一旦縮小傾向を示したが、2003年から再度増加傾向を示しており、訪問した主要バイオ関連企業においても業況は良好で、積極的な事業戦略が印象的である。日本のバイオベンチャーの技術は、ここ数年で急速にレベルアップしていると評価する企業も多く、国内外のアライアンスを期待させる。

今後、バイオ分野において進展が期待されるのは、テーラーメイド医療、バイオとエレクトロニクス、バイオと精密加工といった融合分野、ナノバイオ、食品といったところとみられる。